

---

# 流星のロックマン BEASTSOUL

優菜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

流星のロッキマン BEAST SOUL

### 【Nコード】

N8462X

### 【作者名】

優菜

### 【あらすじ】

22XX年。地球上の全ての電子機器が電波で繋がれている現代。そんな地球に3度の危機が訪れた。1度目はFM星人の侵略。2度目はM-1の超科学を利用した世界征服。3度目はメテオGと呼ばれる巨大流星の出現で、電波ウイルスの凶暴化、ノイズ率上昇によるシステム暴走などだ。そんな3度の危機を救ったのが蒼きヒーローロッキマンこと、星河スバルだ。そしてメテオGの事件から約2年。スバル達は中学生になり、平和に暮らしていたがある日ロッキマンにそっくりな少女がスバルの前に現れる。そこからまた新た

な事件が始まるうとした。

## 挨拶と設定（前書き）

皆さん初めまして。優菜と申します。

これが初投稿なのですが・・・もしかしたら変な内容になっちゃ  
うかもしれません・・・その時はごめんなさい。

はてさて、基本はゲームの内容をなぞって書いていこうと思うので  
すが、私流星のロックマンペガサスしかした事がないのです（それ  
でもうる覚え何ですが）・・・なので2と3はケータイやPCで  
調べました。それでも内容がズレてしまいかもしれませがなるべく  
気をつけて書いていきます。

それではよろしく願いします。

## 挨拶と設定

学校設定

私立光学園。

ソラの曾祖父が理事長。

一応小・中・高・大学と一環である。

1 I A

星河スバル 響ミソラ ジャック

1 I B

双葉ツカサ 最小院キザマロ スズカ

1 I E

白金ルナ 牛島ゴン太

オリキャラ (名前と年)

光ソラ 13歳 1 - A

光ミラ 12歳 小6

琴吹ユウナ 13歳 1 - E

成績(全科目総合)

スバル 3 / 2 6 1位

ミソラ 9 8 / 2 6 1位

ジャック 6 / 2 6 1位

ツカサ 4 / 2 6 1位

キザマロ 7 / 2 6 1位

スズカ 9 3 / 2 6 1位

ルナ 2 / 2 6 1位

ゴン太 2 5 7 / 2 6 1位

ソラ 1 / 2 6 1 位  
ユウナ 2 4 6 / 2 6 1 位

オリキャラ  
人間

光 ソラ 1 3 歳

アメロツパから来た少女で、スバルのクラスに転校して来る。

腰まである綺麗な蒼い髪をポニーテールにして纏めている。瞳は綺麗なライトグリーン。誰がどう視ても美少女。

光学園理事長の曾孫で光ミラの姉。実は光熱斗の子孫であり、ウィザードは熱斗のナビだったロックマン。だがスバル達には秘密にしている。

成績優秀で運動神経も抜群。夏休み明けの課題テストでは1位。趣味は読書や音楽鑑賞。

小学2年生まではコダマタウンに住んでおり、スバルとは幼馴染み。真面目な性格で喋る時は敬語で話す（スバル、ミラ、ユウナ以外）。キレると怖い。

光 ミラ 1 2 歳

ソラの妹で小6。水色のセミロングの髪をツインテールにしている。瞳はライトグリーン。

姉のソラと違い好奇心旺盛。暗い所やお化けが大っ嫌い。勉強はあんまり好きではなく、成績が悪い。だが運動は大好き。

ウィザードはメイルのナビだったロール。ソラ同様スバル達には秘密にしている。

琴吹 ユウナ 1 3 歳

ルナと同じクラス。

ウィザードはバネルのナビだったカーネル（ソラ、ミラ以外はバネルのナビだった事を知らない）。ソラやミラとは昔からの知り合い。髪は黒でセミロング。瞳は深緑。

宇宙が大好きでスバルとは話がよく合う。勉強は苦手で成績は悪い。意外に好奇心旺盛でたまに周りが見えなくなってしまう。

オリキャラ  
電波人間

スカイ・ロック

外見がSSロックマンにそっくりな女の子。綺麗な蒼い髪で、腰ぐらいまである。敵か味方が判らず正体不明。だがいろいろな情報をスバル達に教えてくれる。

クピド・ロール

スカイ・ロックと共に行動をしている女の子（姿はロールとメイルがクロスヒュージョンした姿と一緒に）目元には水色のバイザーを付けている。髪は水色でセミロング。ちょっと子供っぽい（まあ子供だが）が、戦闘は強い。

イシュト・ネイラ

深緑のワンピース型のスーツで、同じ深緑のヘルメットをし目元には真紅のバイザーを付けている。髪は黒でクピド・ロール同様セミロング。

たまに現れスバル達を助けてくれる。だが正体が不明。

細かい設定

\*スバルの正体は大吾が無事地球に戻って来たさい行われた記者会見などでバレている。

\*ミソラとスズカは学業に専念するため、芸能活動は休んでいる。

\*ミソラとスズカは一緒に暮らしている。それと住んでる場所はルナと同じマンション。

\*ジャックとクインティアは暁により、今は普通に暮らしている。

\*ツカサはヒカルと和解している。

\*クインティアは光学園で正式な教師として働いている。因みに1-Aの担任で数学教師。

\*スバル、ミソラ、ゴン太、ツカサ、ジャック、クインティアは電波変換でき、それにサテラポリス遊撃隊である。

\*ソラは一応科学者。

\*ソラとミラの両親は科学者だったが、ある事件で亡くなってしまった。今は曾祖父の所に住んでいる。

## 挨拶と設定（後書き）

それでは頑張って書いていこうと思いますっ！

## プロローグ(前書き)

では頑張りますぞ

## プロローグ

深夜の薄暗い森の中、一つの工場があった。と、言ってもその工場は荒れ果てていた。

コツ．．コツ．．コツ．．

そんな工場の中から足音がする。その足音は工場の入口だったであろう所から外へ出た。

そこには12、3ぐらいの少女が蒼をメインにしたワンピース型のスーツを着ており、頭には蒼いヘルメットを、目元には赤いバイザーをしている。

少女は辺りをキョロキョロと見渡す。

「もう．．．いないか．．．．．」

少女はそう呟くと、空に広がる道、ウェーブロードに乗って何処かへと行ってしまった。

## プロローグ（後書き）

どうでした・・・？

変でしたでしょうか・・・？

## 第1話 朝

9月に入ったばかりの朝、一軒の家から大きな声が聞こえてくる。

『うおおおおおおおいつ！！！！起きろおおおおつ！！！！！！』

青いライオンのような一体の電波体が、まだベッドで心地良く眠っている少年を起こしていた。

「……………ん……………ん……………まだ……………大……………丈夫……………」

少年はそう言ってまだ眠っている。

『何言ってるんだああああ！！ただでさえあの学校はただっ広いのに、今日は始業式だろうがあああ！！！！スバルううう！！！！』

そう。この少年、星河スバルは電波変換する事で、シューティングロケットマンとなり、3度も地球を救ってきたのだ。

「始……………業式……………うわああああ！！！！」

スバルは勢いよく起き上がった。

「うう、ウォーロック今何時?!?!?」

『やっと起きたか・・・ほらよ』

そう言いウォーロックはスバルにハンターV.Gと呼ばれる携帯端末を渡した。

この青い電波体はウォーロック。FM星育ちのAM星人であり、今はスバルのウィザードである。

「!!!!!!もう8時?!ロックなんでもっと早く起こしてくれなかったのさ?!」

『何度も起こしたよっ!それなのにスバルがさっさと起きなかったんだろ?!』

「うわあああ!本当にヤバイよっ!」

スバルは光速の速さで制服に着替えると、カバンとハンターV.Gを持って部屋を出て一階に降りた。

ウォーロックはウィザード・オフにして、ハンターV.Gに戻っていた。

「母さんお早うっ!!」

「あら。お早うスバル。早くしないと学校遅れちゃうわよ」

洗濯物を畳んでいたスバルの母あかねはスバルを見た。

「判ってるっ!!頂きますっ!!」

スバルは大急ぎでテーブルの上に置いてあつた朝食を食べる。因みに朝食はバターロール、サラダ、目玉焼きだ。

「ご馳走さまっ!!じゃあ行って来ますっ!!!!」

「行ってらっしゃい」

スバルは朝食を食べ終わると玄関に向かい、靴を履いて家を出た。あかねはスバルを笑顔で送った。

スバルは全速力で走っていた。

「ロック今何分?!」

『8時10分ちよい過ぎだな。このまんまじゃ間に合わねんじやないか？只でさえあの学校だった広いのに』

「うっ？！」

スバルの胸にウォーロックの言葉が刺る。

まあウォーロックの言う通り、スバルが通っている光学園という学校は初等部、中等部、高等部、大学部とあり、しかも生徒用の寮と教職員用の寮もある。要するに、敷地がバカ広いのだ。その為、校内ではウェーブライナーが走っている。だがまあ、8時10分からは夕方までもう走らないのだが……。因みにに校門から中等部校舎まで歩いて約20分、ウェーブライナーだと約5、6分ぐらいだ。そして、学校が始まるのは8時30分からだ。

「うわあああっ！もう間に合わないっ！！」

『しゃーない……。電波変換してやるか』

「ほんとっ？！」

『ああ。但し、帰ったらウィルス退治なっ』

「うっ……。判ったよ……。じゃあいくよ。」

『おっ！おっ！』

「トランスコード！シューティングスターロックマン！！」

スバルは電波変換しロックマンとなり、ウェーブロードに乗り学校へ向かった。

## 第1話 朝（後書き）

学園の敷地広さは兎に角広いです。はい。

因みに学園にある建物は

初等部、中等部、高等部、大学部、それぞれの寮、教師用の寮ホールが3つ、屋内プールと体育館がそれぞれの校舎付近に1つずつ、大きな図書館、理事長室や生徒会室などがある本部、後は部活やサークルなどの建物が少々……。

と、まあこんな感じですよ。

まあこの学園の高等部、大学部はいろいろな学科があるし、基本エスカレーター式で中、高、大と上がるけど、外部からの入学も有りですからクラスも結構ありますしね。

まあ兎に角っ！こんな感じですよっ！！  
それではっ！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8462x/>

---

流星のロックマン BEASTSOUL

2011年10月26日06時13分発行